

4-② もし1日前に戻れたなら…

■対象：中高生～一般地域住民 ■人数：20人 ■時間：80分程度 ■手法：エピソード+ラベルワーク

学習のねらい 災害にあう前に、備えておくといふことやものを考えて、話し合うことで、災害に対する構えをつくり、事前の行動をとろうとする意欲を高めることができる。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
	【はじめに】 今日は、災害時を想定して、必要になると考えられる“準備”について考えましょう。それぞれの経験からくる視点や発想を大切に、普段から準備しておきたいものをみんなで考えましょう。 では、まず心と体をリラックスさせましょう。		
20分	【アイスブレイク】 ① 後出しじゃんけん ② せーのパン！ ③ 自己紹介 ・自身が体験した災害について	・③は、これまで自分が体験したことのある災害について簡単に紹介し合うとよい。 ・「話しにくい」「ない」場合は話さなくてもよい。	
50分	《はじめにルールとマナーを確認しましょう》 【中心のワーク】 ① エピソードを聞く [1分] ② 1日前に戻れるとして、自分だったらどうするかを考え、思いっただけ付箋に書く [6分] ③ グループで付箋を模造紙に出し合い、分類しながら島をつくる [15分] ④ 島を整理して、見出しをつける [15分] ⑤ グループ発表を聞く [13分]	・ものの準備だけでなく、幅広い観点から考えるように促す。 ・付箋を出す際に、理由も合わせて話してもらう。 ・設定は、40代男性だが、自分ならこうするというような意見が出てきても受容し、ふり返りに反映したい。	エピソード資料 付箋 サインペン 模造紙 色マーカー
10分	【ふり返りと分かち合い】 ① 自宅に帰ってから取り組もうと思ったことをワークシートにまとめる ② グループで発表し合う	・自己をふり返り、今後について考える。 ・全体に広げることができれば、取り上げてよい。	ワークシート
	【おわりに】 災害は、いつも突然やってきます。今日考えた、準備しておくといふものの中には、ご近所さんとの関係をつくっておくことなど、1日だけでは準備しきれない内容もあったのではないのでしょうか。普段から、備えることが安心して暮らせる町づくりにつながるのかもしれない。		

【エピソード資料】

このエピソードは、内閣府の「一日前プロジェクト」から引用したものです。
東日本大震災を経験した仙台市青葉区の40代男性（会社役員）の事例をもとに、もし1日前に戻れたなら、どうするかを想像しながら聞いてください。

「災害対策ゼロの自分に気づかされる」

（仙台市青葉区 40代 男性 会社役員）

事務所でデスクワーク中、「地震だなー」と軽く思った次の瞬間にはこれまで体感したことのない信じられない揺れに・・・。

ビルが古いこともあり、本棚を始め、ありとあらゆるものが倒れるなか、必死で目の前の倒れそうなものを手で押えてました。とっさの出来事に机の下に身を隠すなど冷静な判断もできませんでした。

独り身で、両親は県外なので、まず心配したのは自宅マンションに居る愛犬のこと。マンションまでは徒歩圏なので、急いでマンションに戻り、啞然・・・。

8階の部屋は玄関にひび割れ、部屋の中は食器棚からテレビ、本棚まで、事務所同様にメチャメチャな状態。幸いにも愛犬は無事で、部屋のものには一切触れず、愛犬を連れてすぐに事務所に戻りました。

その後は事務所で3日間過ごすことに・・・。

もし一日前に戻れたなら・・・。

（後略）